

# PART 4

## ライティングあの手この手



ここではライティングで知っておくと役立つ「小ワザ」を5つ紹介します。もちろん、ここで紹介するようなテクニックがいつでも使えるわけではありませんが、「知っておくと何かのときに役立つことがある」と考えてお読みいただければと思います。

- 1 名詞を避ける
- 2 変化を比較級で表す
- 3 断定を避ける
- 4 「Sは～によって変わる」の表現方法
- 5 ホンモノ志向なら ...

## 1 名詞を避ける

英文の表現の要は名詞です。ところが日本人が英文中で名詞を使うときは次のようなことに注意しなくてはなりません。

- a) その名詞は可算名詞か不可算名詞か？
- b) 可算名詞なら「単数形は裸では使えない(→p. 210)」ので、冠詞をつけるか(その場合、aかtheか)、あるいは所有格をつけるか？ または複数形にするか？ 不可算名詞なら、裸か、theをつけるか？ あるいは所有格にするか？
- c) 前後に前置詞を置く場合、どのような前置詞と相性がいいか？

といったことです。

さらに「名詞形」の語彙力も関わってきます。(名詞形がすべて -ness とか -tion とか -ity といった語尾で終われば話は楽なのでしょうが...)

たとえば、以下の①、②の空欄に入る適切な派生語の形はどうなりますか？

形容詞		名詞形
「寒い」cold	→	「寒さ」coldness
「暖かい」warm	→	「暖かさ」( ① )
「暑い」hot	→	「暑さ」( ② )

①はwarmth、②はheatが一般的です。ところが受験生の答案を見ると、coldnessの連想からか、-nessをつけて作った名詞形(大きい辞書を引けば、warmnessとかhotnessという語も載っていますが、あえてそうした語を試験で書く必然性はあまり考えられません)を無理やり書いている場合があります。

このように、名詞を使うには、結構色々なことを気にする必要があります。そこでここでは名詞の使用を回避して書く方法を紹介합니다。(もちろんこれがいつでも使える手段ではないことは了解してください)

次の日本語の下線部を英語に訳すとしましょう。

### 【例題1】

「東南アジアの人たちには冬の北海道の寒さが想像できないだろう」

どうでしょう。直訳しようとする、色々迷う点があると思います。

- 「冬の」は winter's? winter? あるいは in winter それとも of winter? winter に the はつく、つかない?
- 「北海道の」は Hokkaido's? または of Hokkaido? in Hokkaido?
- 「寒さ」は coldness? the は必要? coldness は可算、不可算?

こうしたことのほとんどは「寒さ」という名詞を使うことに伴う問題です。(ちなみに、日本語にはこうした「～さ」や「～み」で終わる名詞がたくさん存在します。「暖かい」なら「暖かさ」「暖かみ」、「厚い」なら「厚さ」「厚み」など。でも必ずしも2種類あるわけではなく、「厚い」は「厚さ」と「厚み」がありますが、「熱い」「暑い」は「熱さ」「暑さ」はあっても「熱み」「暑み」はないですね。きっと日本語を学習している外国人の方はこういう点に苦労するのでしよう...)

このような場合、次のように **how** と形容詞を使って言い換えて表現できることが多いことは覚えておくとよいでしょう。

「この本の厚さ」〔直訳〕the **thickness** of this book  
→「この本がどれほど厚いか」**how thick** this book is  
(× how this book is thick としないよう語順に注意)

したがって、上の例題も、「冬の北海道の寒さ」を「北海道は冬がいかに寒いのか」と言い換えて、

People from Southeast Asia cannot imagine **how cold Hokkaido is in winter.**

と表現できます。(文末の in winter は in the winter と the をつけてもかまいません) この表現のいいところは、「寒さ」という名詞を回避したことで、**可算不可算や単数複数などで悩まなくて済むようになった**ということです。

また、否定の意味を持つ名詞形を書こうとして、un-がつくか、-in (-im など)がつくかで迷う場合がありますが、これも名詞を形容詞に変換すれば、notを使って表現できます。

## 【例題2】

「このことは現代の若者の忍耐力の欠如を表している」

「忍耐力」は辞書には *patience* とあります。では「忍耐力の欠如」はどう書いたらいいでしょう？ 1つには「忍耐力がないこと」と考えて *patience* の反対語 *impatience* を使っても書けそうですね。あるいは「欠如」に相当する *lack* という語を使って *lack of patience* と書けそうです。ただこうした名詞に冠詞は不要？ 前置詞は？ と迷うかもしれません。

これも「現代の若者は忍耐力がない」と言い換えて、

This shows that young people today are **not patient**.

のように *patient* という形容詞を使い、not といっしょに使えば簡単に表現できます。

## 【例題3】

「先月30年ぶりに故郷を訪れてその変わりように驚いた」

これも「変わりよう」という名詞を探すのではなく、「変わった様子」「どれほど変わったのか」のように考えてみましょう。

Last month, I visited my hometown for the first time in thirty years and was surprised at **the way it had changed**.

[ ... at **how much it had changed**. ]

このように名詞を回避して書くという方法は、場合によっては原文と若干ニュアンスが変わったり、やや冗長な英語に聞こえることもあるので、いつでも使えるわけではありませんが、知っておくと和文英訳で威力を発揮するテクニックです。

## 2 変化を比較級で表す

「増える・減る」「長くなる・短くなる」といった「変化」を英語で表現するのは意外と書きづらいものです。そんなとき威力を発揮するのが「比較級」です。次の英文を見てください。

Japanese people live **longer** than ...

この場合、*than* の後に置く比較の対象によって、意味が大きく変わります。

a) 「アメリカ人」「フランス人」など、他国の人々

Japanese people live **longer** than *Americans*.

(日本人はアメリカ人より長生きだ)

b) 「昔の日本人」など、同じ日本人の過去の姿(状態)

Japanese people live **longer** than *they used to*.

b) の場合は「日本人は以前と比べてより長生きする」という意味になるので、結局「日本人は昔より長生きするようになった」「日本人の寿命は延びた」という変化を表していることになります。同じことを *longer* を形容詞として使って、

Japanese people *have longer life span* than they did.

とも表現できます。

「比較」というと、どうしても主語を他の人・物と比べるものだと考えてしまいがちですが、**同じ主語の昔の姿と比べれば、それはその主語の変化を表すことができる**というわけです。

いくつか例文を見ておきましょう。次の日本語は( )内のように言い換えて表現できます。